



東京部会(第44回)

日時: 2011年12月20日(火) 19:00-21:30

場所: 日本大学経済学部7号館13階会議室3

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、長谷川(桜修館中等教育)、宮崎(蒲田高)、山崎(北海道豊富高:筑波大院)、神尾(第一学習社)、中沖(清水書院)、石山(東証)、榊原(東証)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生より、12月の年次大会・シンポジウムの総括が行われ、法と経済の対話について第一歩が踏み出したこと、皆が何とか工夫しようと努力していること、またその後大阪部会などでより実践的な整理をしようとする動きが出ていることなどが指摘され、今後もこのような活動を続けていきたいとの意見が述べられた。またそれとの関係で、篠原先生より現場の教員が法と経済についてどう理解しているか、どう教えようとしているかなどについてアンケート調査を行ったかどうかという提案があり、次回の会合により具体的な案を出して議論を続けることになった。さらに、12月のこれまでのワークショップなどの活動報告、および来年1、2月の活動予定も報告された。
2. 新井先生より配布レポートに基づいて、以下の報告があった。(1)夏の教室の日程、場所、内容、講演講師候補などについて報告と議論があり、特に内容について様々な意見が述べられ、次回の会合までに絞り込むこと、(2)今年度の入試プロジェクトについて、担当者案が提示され、今後とも検討を続ける予定であること、(3)『経済セミナー』連載についてHP上で公開していくこと、(4)市場について教える内容に関する問題点のリストが示され今後とも検討を続けていくことなどが報告された。
3. 宮尾より、12月にHPの「オープン討論室」に投稿した以下の3つの内容についての説明があった。
  - (1)「公平と効率との選択：アンケート結果」について、国際教養大学の担当クラスの学生の間には公平志向の学生と効率志向の学生とははっきり2分される傾向が見られたこと、
  - (2)「学生たちの理解と誤解：自由貿易協定の利益」について、自由貿易協定のプラスやマイナスについての学生たちの理解が不十分であること、
  - (3)「経済学入門：薦められる本と薦められない本」については、一見興味深そうなタイトル『中学生でもわかる経済学』の本の内容がいいかげんで、一見気付かないような目立たない本『すごくやさしい経済学』の内容が以外によいことが指摘された。この報告後、特に(2)の自由貿易や市場取引のメリットについて、経済学的な議論や結論がなかなか一般に受け入れられないことの問題点が参加者から指摘され、活発な議論に発展した。

(文責：宮尾尊弘)

次回開催予定：1月17日(火) 19:00~21:00。場所は日本大学経済学部7号館13階会議室3。議題は、法と経済についてのアンケートの検討、夏の経済教室の内容の絞り込み、その他。